

住友四百年

# 源泉



第十一話「住友存亡の危機・煙害」  
作：西ゆうじ 画：長尾朋寿

大阪富島・住友本店——。

住友には、明治十五年（1882）三月に制定され、同二十四年（1891）二月に改正した「住友家法」の「営業の要旨」に次の三カ条があります。

第一条 我が営業は信用を重んじ、

確実を旨とし以て其の鞏固隆盛を期すべし。

第二条 我が営業は時勢の変遷、理財の損得を計り弛張興廃することあるべしといえども

いやしくも浮利にはしり軽進すべからず。

第三条 愛媛県の列子鉾山の事業は我が住友家代々の財産・資本であり、この事業の成否は住友家の盛衰に係るるので、旧来行なってきた事業のやり方にならって将来の利便を考え、ますます盛大になるようにすること。

（第三条は意識）

◎この作品は、住友の歴史を参考にして創作された物語です。◎



この度、制定された  
「住友家法」は、  
総理人がお考えになられた  
住友の事業精神ですか？

いや。伊庭、  
お前は新参だから  
知らないだろうが、  
あの事業精神……  
家法はな。



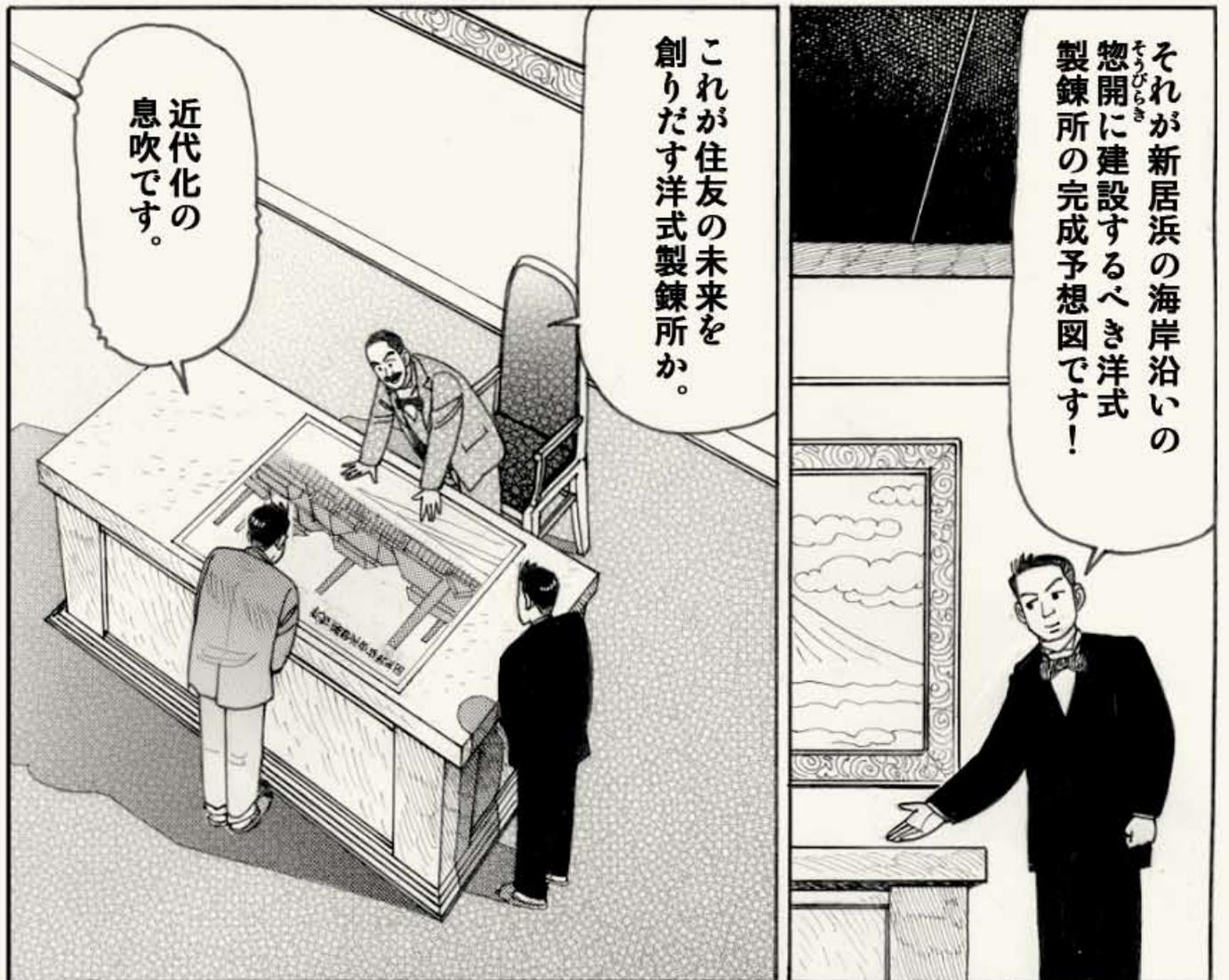
住友初代・文殊院  
政友様から二百五十余年、  
脈々と慣用されて来た、  
泉屋住友の良法を基に、  
今の時勢と人情等を  
考え合わせて  
編制したものだ。



なるほど、そうでしたか。  
しかし、企業が信用確実を  
重んじるのは当然ですが、  
その目的は利益追求第一  
優先のためにはず。

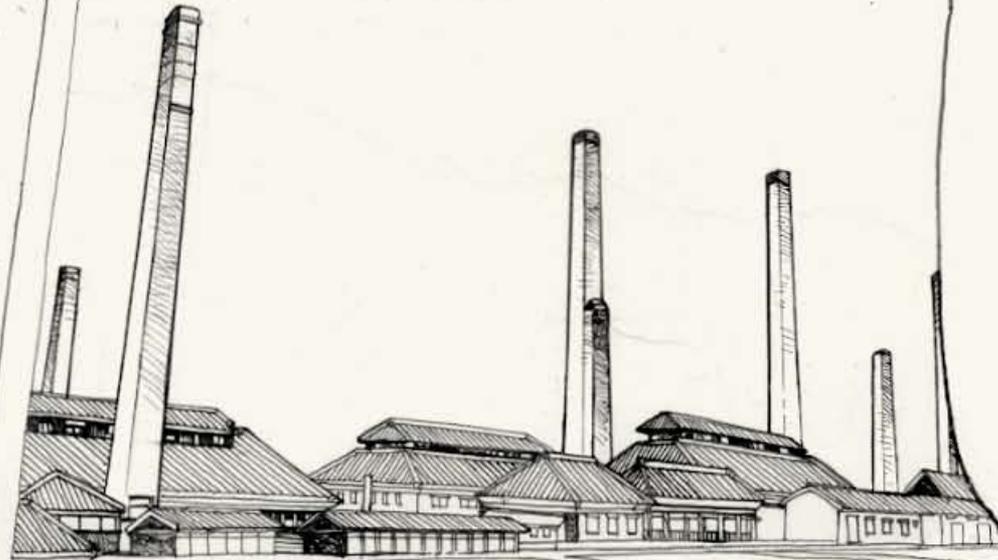
ですが、住友は違う。  
浮利：目先の利益には走らず  
国家を利し、社会の役に立つ  
企業であるということ  
大義としているんですね。  
感激です。





近代製錬は銅のみでなく、  
その廃液から硫酸銅や硫酸鉄や  
酸化コバルトも回収でき、  
農漁村の新居浜は臨海工業都市に  
生まれ変わるとも考えられます。

洋式製錬所完成予想図



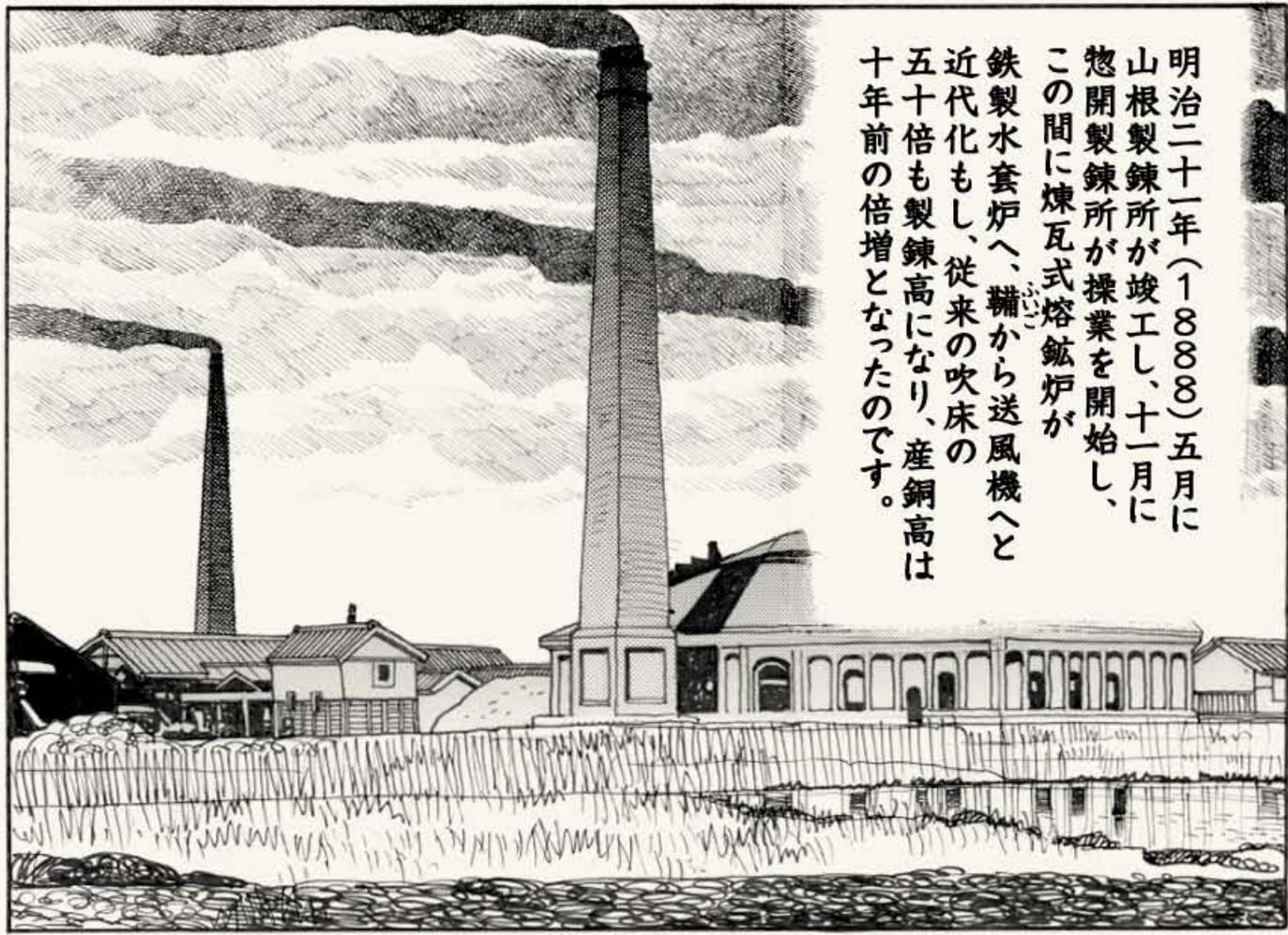
それは国家、社会の  
利となる産業か、  
塩野君？

はい。  
我が住友がやれば、  
そうなります。  
伊庭支配人。

よし、早速、  
政府に製錬所建設の  
許可願いを出す！



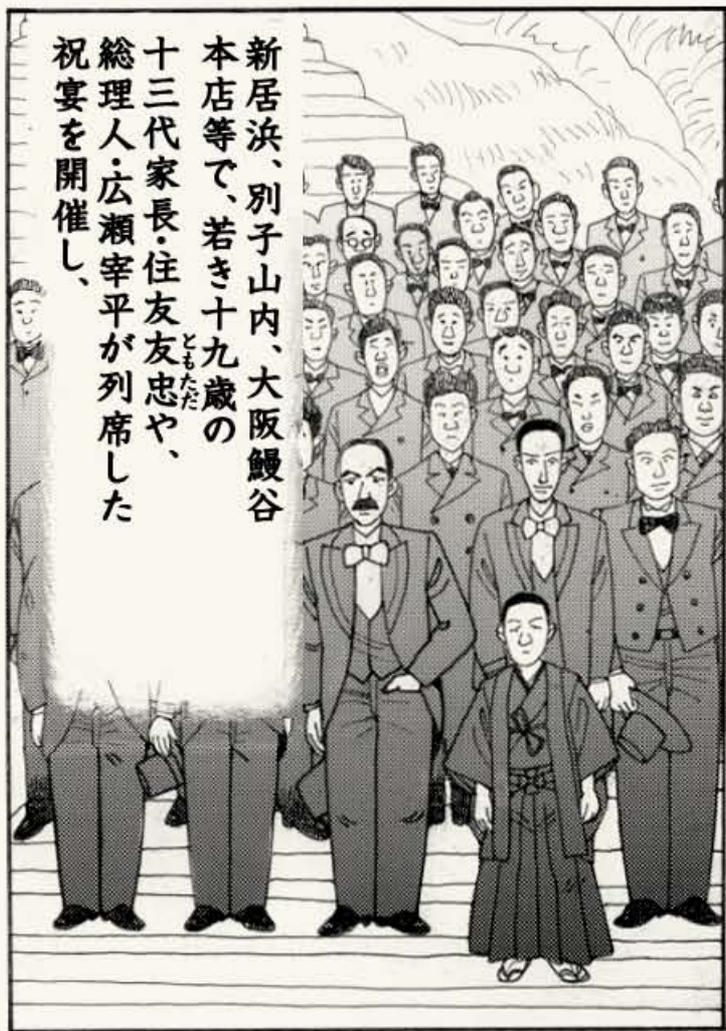
明治二十一年(1888)五月に山根製錬所が竣工し、十一月に惣開製錬所が操業を開始し、この間に煉瓦式熔鋳炉が鉄製水套炉へ、鞴くわいから送風機へと近代化もし、従来の吹床の五十倍も製錬高になり、産銅高は十年前の倍増となったのです。



そして明治二十三年(1890)五月二十六日、別子銅山は元禄四年の開坑から記念すべき二百年を迎えました。



新居浜、別子山内、大阪鰻谷本店等で、若き十九歳の十三代家長・住友友忠ともただや、総理人・広瀬幸平が列席した祝宴を開催し、



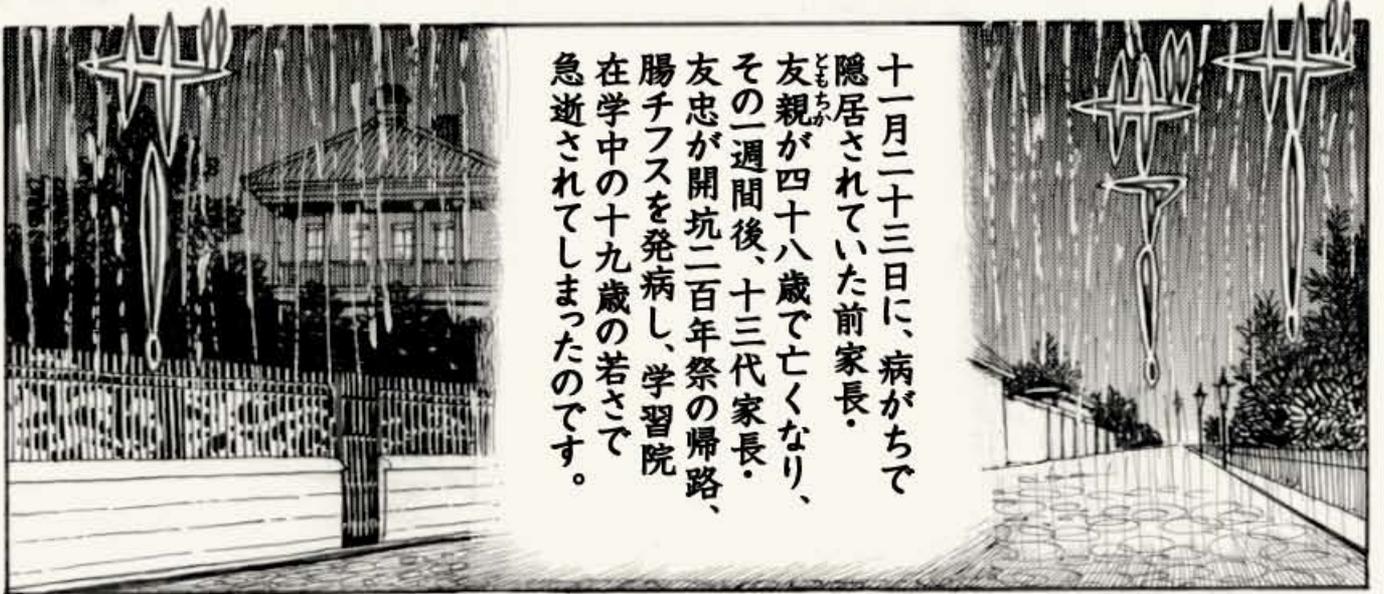
住友はこの報恩を末永く後世に  
伝えるべく、皇居前に  
「楠公像」の献納を皇居に願ひ出、  
十年後の明治三十三年七月十四日に  
建立され、今日に至っています。



そんな別子開坑二百年の祝賀と  
銅増産の喜びに包まれていた住友を、  
突然の不幸がたたみ掛けるように  
襲ったのです。



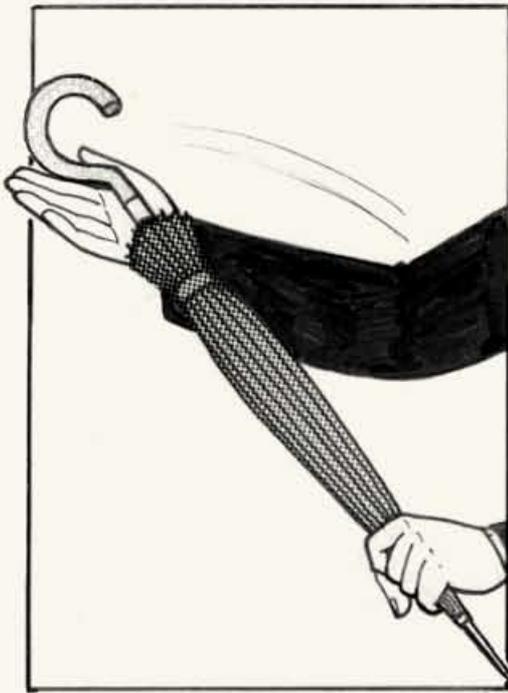
十一月二十三日、病がちで  
隠居されていた前家長・  
友親ともちかが四十八歳で亡くなり、  
その一週間後、十三代家長・  
友忠が開坑二百年祭の帰路、  
腸チフスを発病し、学習院  
在学中の十九歳の若さで  
急逝してしまったのです。



総理人、  
今後はどう  
いたしますか？

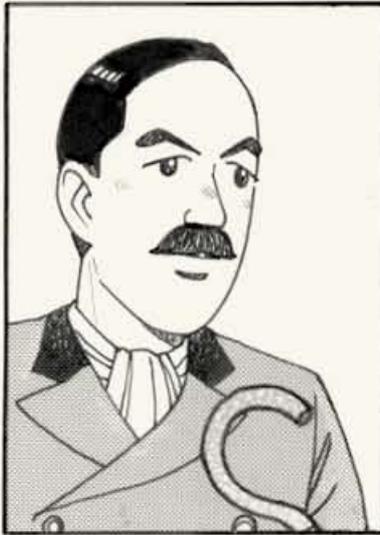
我々住友の人間は、  
心の拠り所でもある  
家長さま無くしては、  
一歩も前へ進めぬ。





それが  
住友の家法だ。

とりあえずは、  
友親様夫人で友忠様の  
母上の登久様に、  
十四代家長に就いて頂き、  
十七歳の満寿お嬢様に  
婿養子を迎える。



御養子選び、  
私に任せて頂け  
ないでしょうか？



では、  
お任せ頂ける  
のですね？



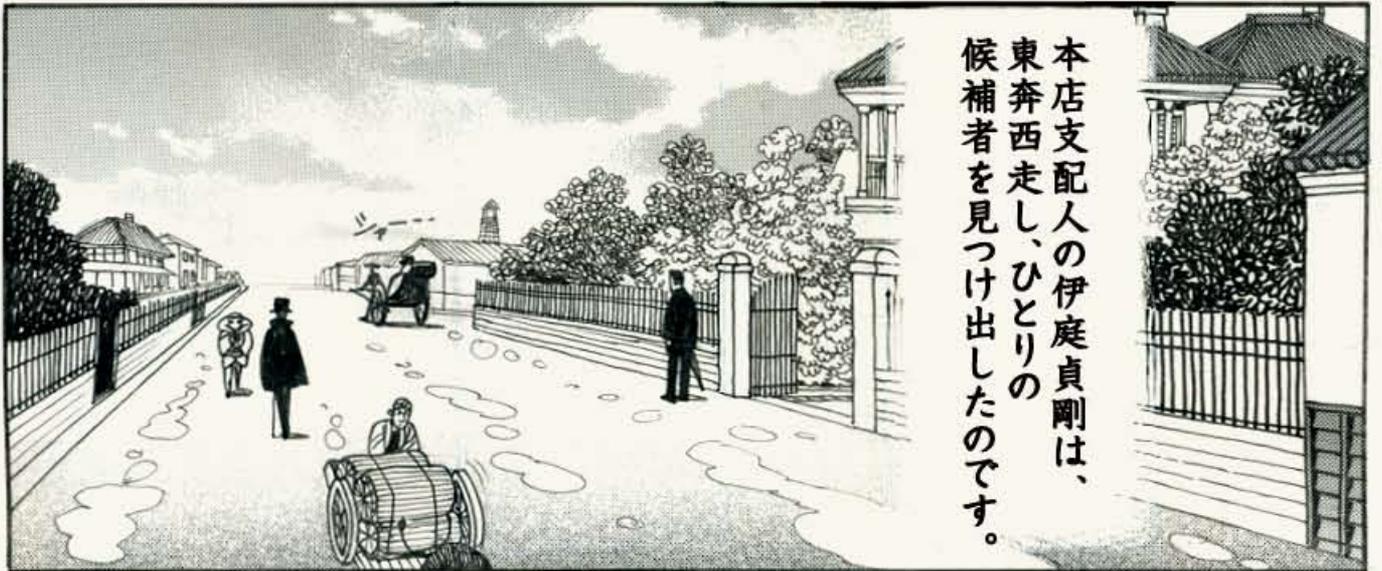
傘はいらなくなつた。  
お前の気構えが  
住友の涙雨を熄やませた  
ようだからな。貞剛。



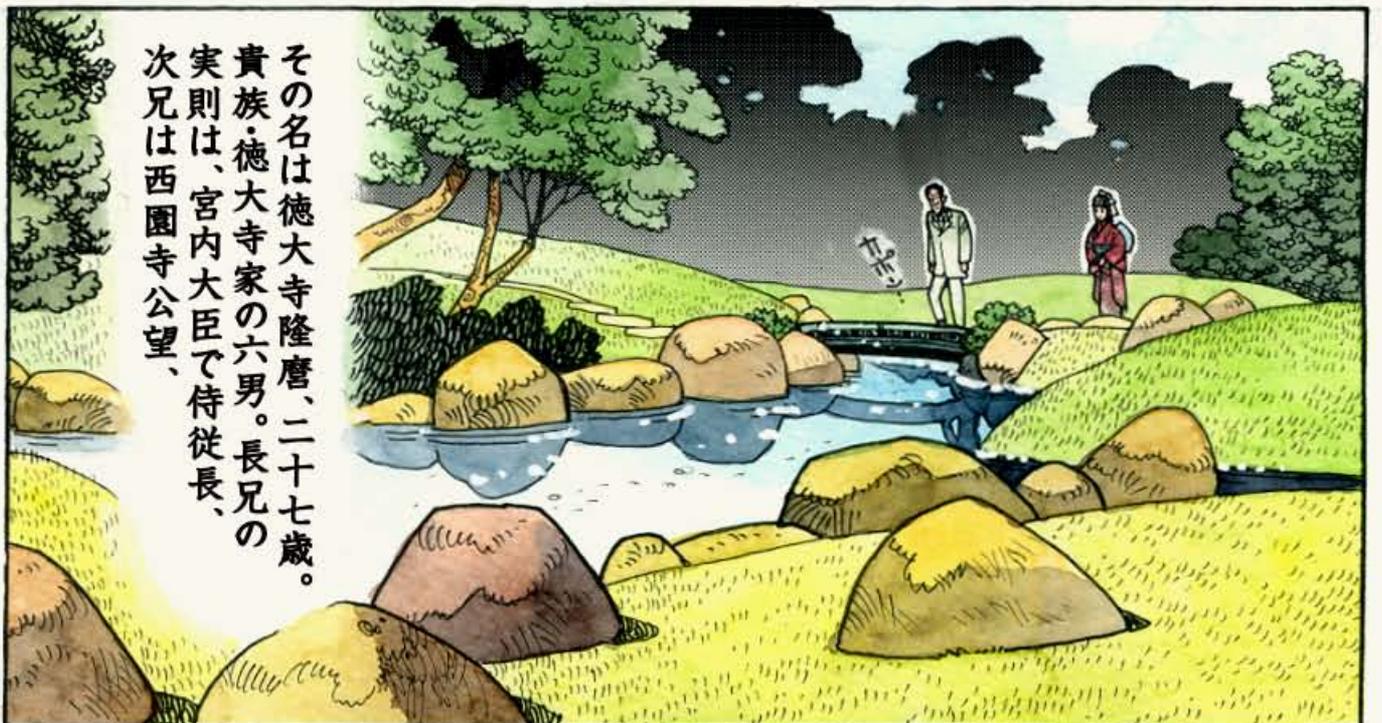
はい。  
住友は政治に近寄らず、  
政治に頼らずですから、  
総理人。



うん。ただし、  
政治家は絡ませたら  
あかんで。



本店支配人の伊庭貞剛は、  
東奔西走し、ひとりの  
候補者を見つけ出したのです。



その名は徳大寺隆磨、二十七歳。  
貴族・徳大寺家の六男。長兄の  
実則は、宮内大臣で侍従長、  
次兄は西園寺公望、

……!!?  
これは石橋に見えて、  
石橋とは違いますね、  
満寿さん？



はい。  
別子の銅で石橋に  
見立てて、広瀬宰平が  
拵えさせたものです、  
隆磨さま。



『事業は石橋を叩いて、  
渡るがごとく確実を旨とする』  
という住友の事業精神を  
表されているのですね。  
素晴らしいです。



明治二十五年四月十八日、  
徳大寺隆磨は住友満寿の婿となり、  
名を住友吉左衛門友純ともいとと改め、  
翌年、十五代家長となられ、



現在の住友各社の前身企業を  
次々と起業し、大正十年には、  
住友総本店を合資会社とし、  
社長に就任するのです。



その頃、別子銅山では新居浜の  
惣開製錬所の更なる増産と、  
危険を伴う海拔千メートルの地から、  
牛車や人間が背負っての銅鉱石運搬を  
改組するべく、当時最新の動力を  
導入したのです。



それが下部鉄道（明治二十六年三月  
十五日竣工）と上部鉄道（同年八月  
二十七日竣工）です。これは我が国  
初の本格的な山岳鉦山鉄道で、その  
蒸気機関車は独・クラウス製で、  
松山の「坊ちゃん鉄道」と同型でした。





おれたちの田畑を  
むごたらしく  
枯らしたのは…。



住友製錬所の  
煙が原因  
やっつ！

それは煙害。製錬所からの  
亜硫酸ガスが原因だったのです。  
惣開製錬所、六キロ離れた  
山根製錬所の煙突から吐き  
出される煙が、田畑山林を  
枯らし続けていたのです。



おおー!!!

このままでは  
俺たちは  
住友に殺される。  
県庁に訴えよう！

明治二十六年九月。  
新居浜、金子、庄内、新須賀の  
四ヶ村が煙害を愛媛県へ提訴し、  
当時のマスコミも大きく  
取り上げ出したのです。



また当時、別子銅山の中枢である  
住友の新居浜分店にも、  
何度となく農民達は煙害打開を  
要求すべく押し寄せました。

責任を  
取れ！

おれたちを  
殺すのか！



これらの煙害被害者の  
農民達に対して、  
愛媛県は「調査した結果、  
そのような事実はない」と、  
無下に企業側に立った  
対応を取ったのです。



しかし、その企業である  
住友は違いました。







処置は伊庭、あなた  
責任は十五代家長、  
私に取ります。



友純様…。



畏まりました。



必ずや、初代文殊院  
政友様をはじめ、  
御先祖様はお許し  
下さると存じます。



これが住友の初代から  
脈々と受け継がれ、  
これからも守り続けるべき経営理念。  
それを私の代で潰したとしても…。

明治二十七年七月四日。  
伊庭貞剛は、煙害問題解決の  
ために、別子銅山支配役  
として新居浜へ向かいました。

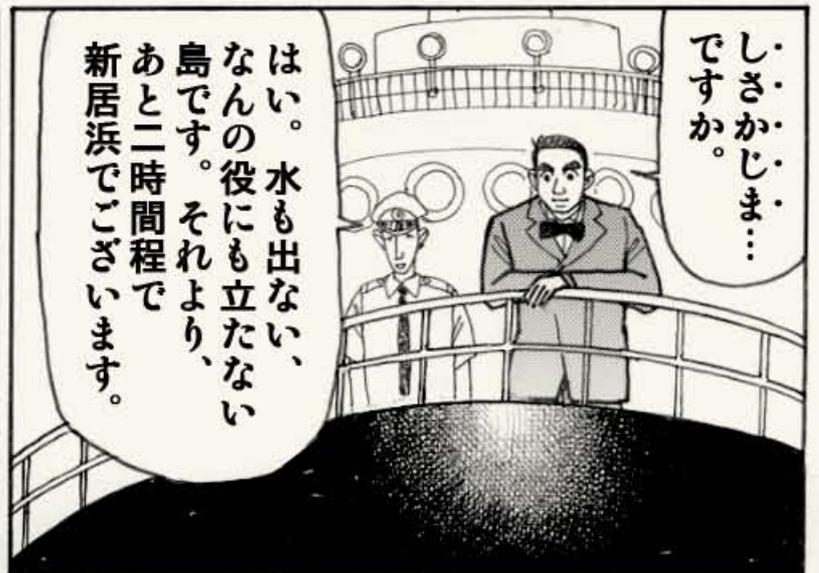
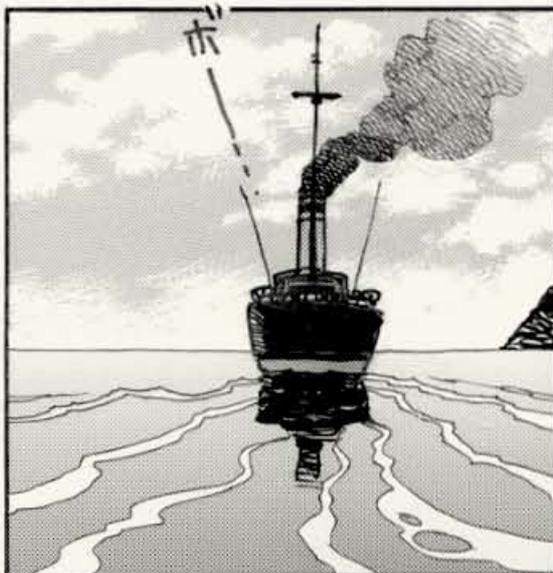
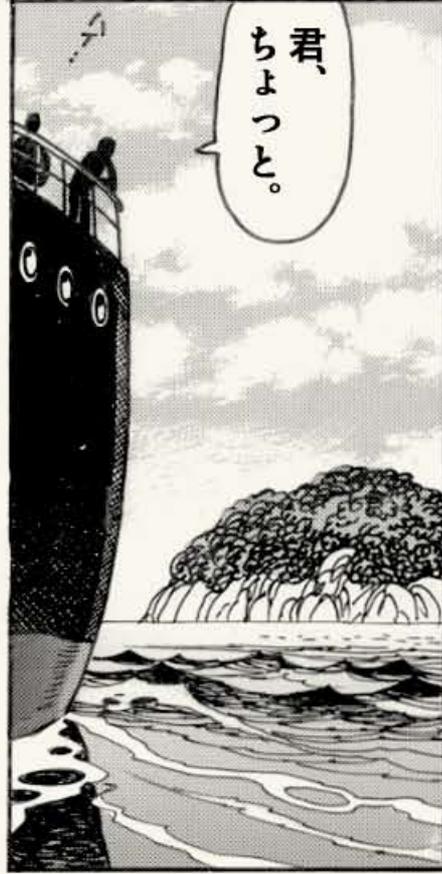
君、  
ちよっと。

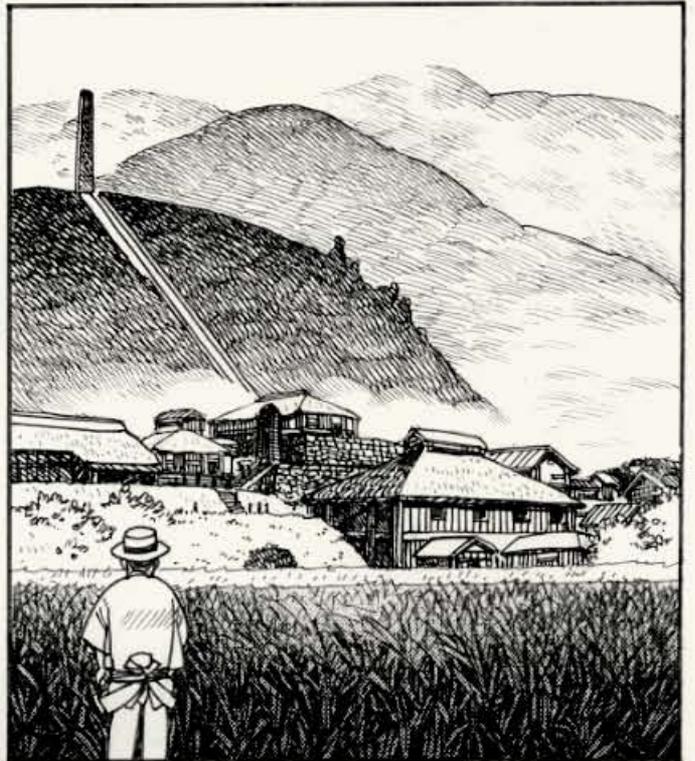
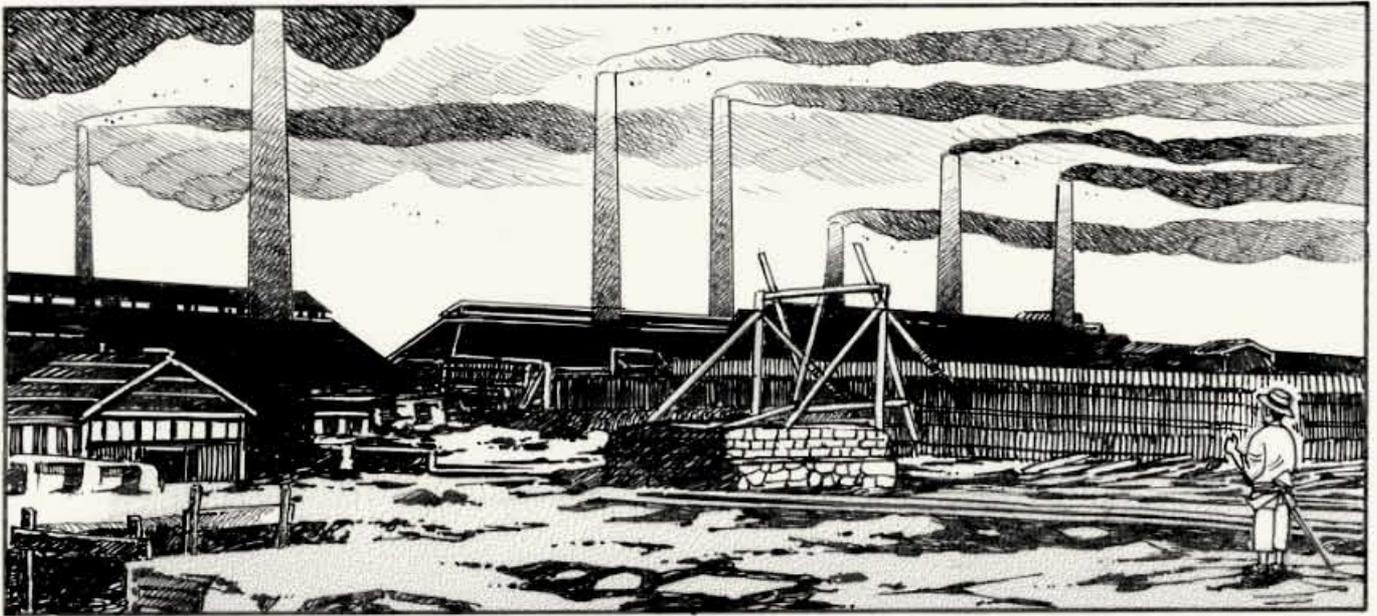
あれは  
なんという  
島ですか？

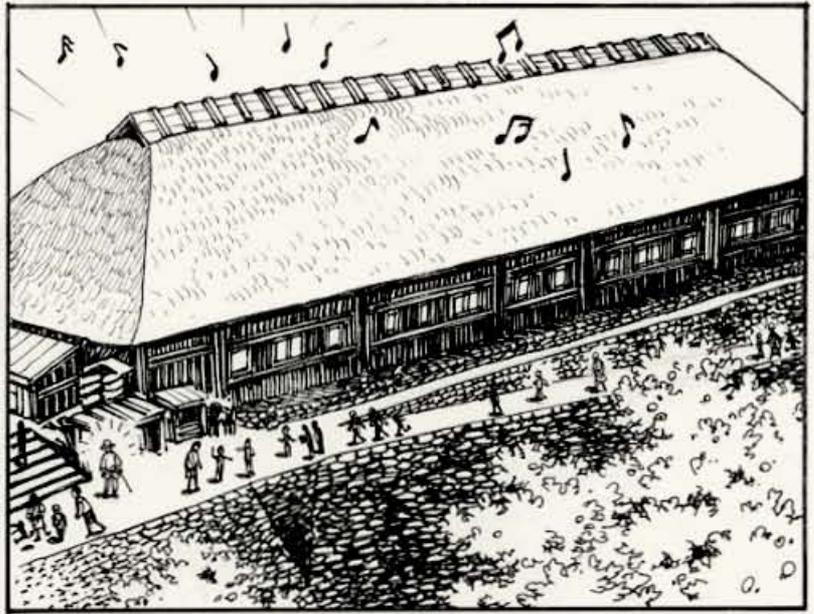
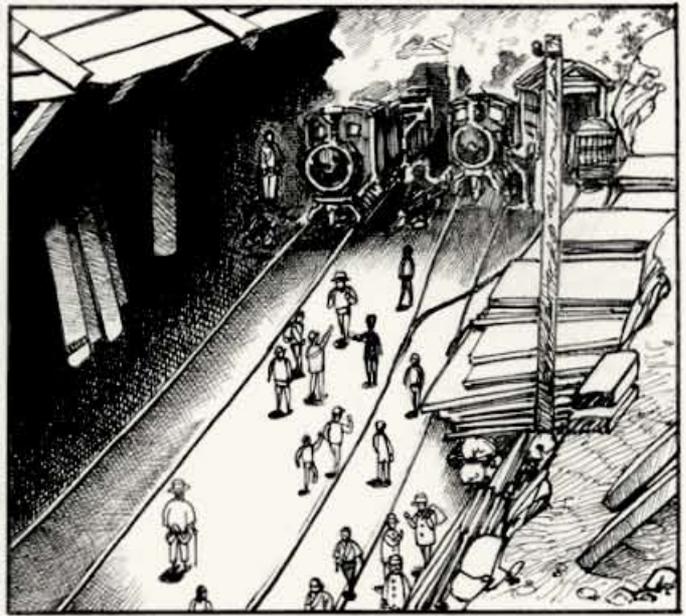
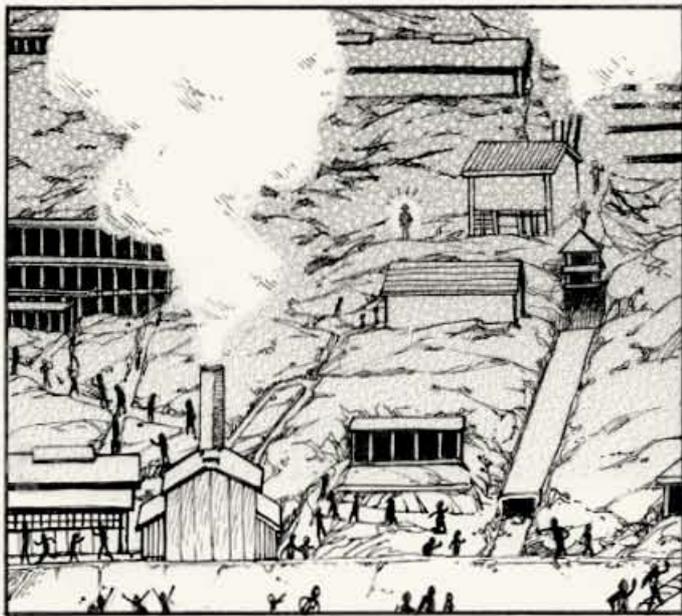
あれは明神島、家ノ島、  
鼠島、美濃島で、  
土地の者達は  
四島を合わせて  
「四阪島」と呼んで  
います。

し・さ・か・じ・ま……  
ですか。

はい。水も出ない、  
なんの役にも立たない  
島です。それより、  
あと二時間程で  
新居浜でございます。







煙書で育ちもせん  
かもしれませんが、  
畑を見捨てたく  
ないんでの。

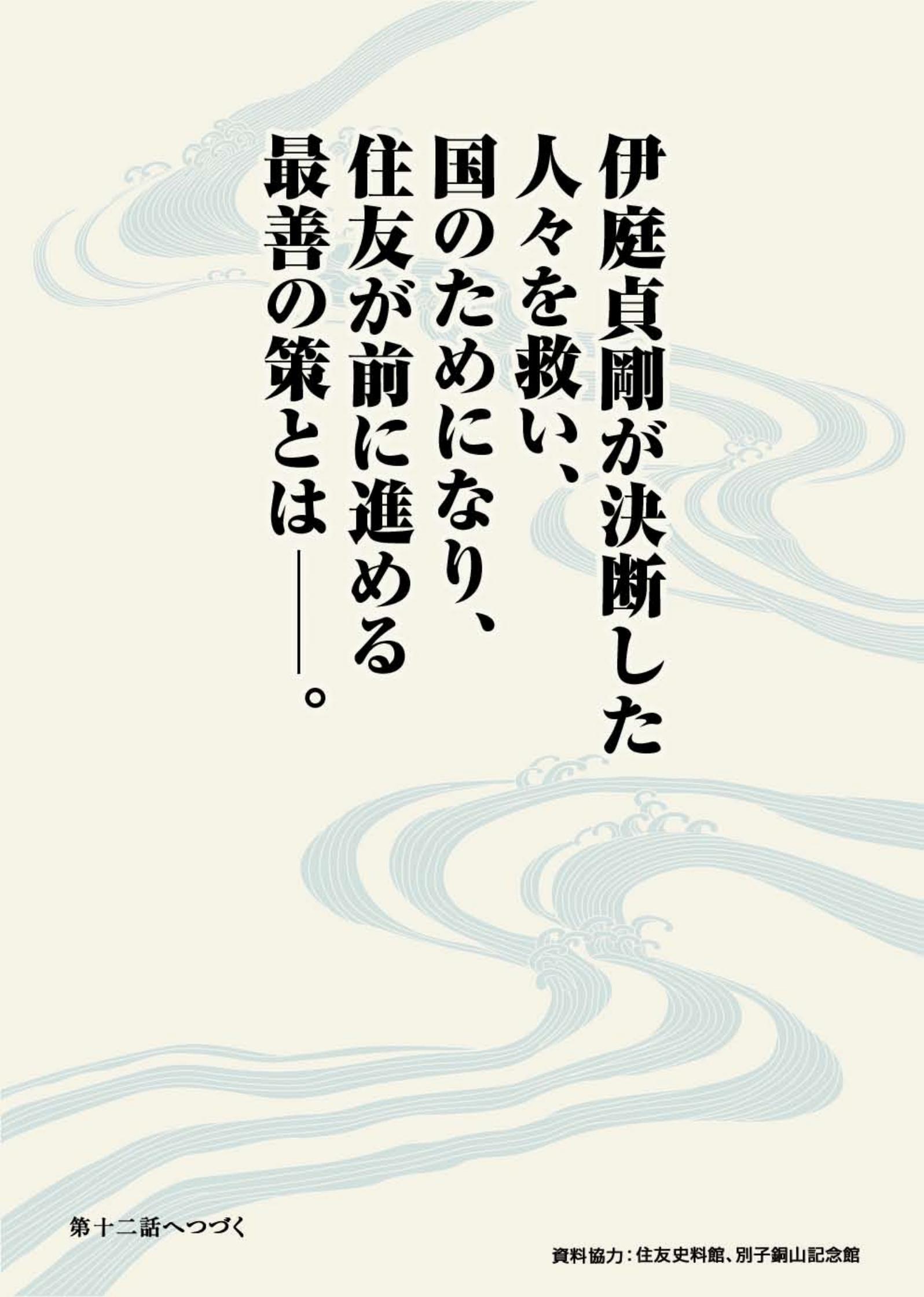


伊庭貞剛は、自分の目と体で  
別子銅山と新居浜に生きる  
人々の息遣いを感じ取り、  
最善の策を熟慮していたの  
です。



よし、決めた。  
人々を救い、  
国のためになり、  
住友が前に進めるのは、  
これしかない!!





伊庭貞剛が決断した  
人々を救い、  
国のためになり、  
住友が前に進める  
最善の策とは――。